

2024年4月吉日

## 協会創立50周年記念大会開催に伴う スポンサーシップ(協賛広告)ご参加のお願い

公益社団法人日本建築積算協会  
会長 浦江 真人

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、本会は、創立50周年記念大会を2025年7月18日、東京の明治記念館にて開催いたします。当協会の設立は1975年で、初代会長にル・コルビュジェの弟子で、早稲田大学教授や日本建築学会会長などを歴任された建築家の吉阪隆正先生を迎えて発足し、私で10代目となります。発足にあたっては、当時の建設省住宅局参事官・救仁郷斉氏が会誌への寄贈文で「建築工事の積算技術は個人・経験的色彩が強く、統一・科学的な技術体系が確立されにくい」こと、「しかし、建築数量積算基準の制定、積算技術教育の普及、建築コストの適正化等の問題を含めて、総合的な建築積算技術の向上を図ることの社会的要請はきわめて強い」こと、「これは建築界全体に関する問題であり、建築積算事務所のみならず、官公庁等の建築工事の発注者から受注者である建築業界まで、関係者すべてが協力しなければ統一的にこれを推進することはできません」と述べられ、当面する建築積算に関する種々の課題に取り組む団体として設立された経緯があります。

このような経緯もあり当協会は、発注者、設計事務所、建設会社、積算事務所等の建築生産関係者のすべてが参画した団体であることが特徴となっています。また、協会独自の認定資格として、建築コスト管理士、建築積算士、建築積算士補の3種類を設け、現在では、資格者数は各々約1,750名、約11,000名、約10,600名となりました。

当協会の資格は、「資格取得はゴールではなく、能力向上をはかっていくスタート地点である」というコンセプトに基づき、資格者に対して生涯にわたる研修機会や情報提供を行い、実務における技術・知識の向上を図る「生涯継続型支援」を目指してきました。その成果が結実してきており、ひとえに皆さま方の長年のご賛同とご協力の賜物と感謝いたします。

そして、改めてこれまでの当協会に関わられた方々により築かれた50年間の業績に感謝し、次の時代に向けて、建築積算や建築コスト管理に関わる技術者の技術の向上と社会への貢献に取り組む決意を新たにしたいと思います。

この度開催予定の創立50周年記念大会において、参加団体および参加者に対する企業広報に有益な「スポンサーシップ・パッケージ(協賛広告)」をご用意いたしましたので、ご案内いたします。申込期限は2024年12月13日、ご入金期限は12月27日までとさせていただきます。本スポンサーシップ・パッケージは、広告宣伝費として損金に算入することが可能であることを申し添えさせていただきます。

今後も一層のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

敬具